

東京都立図書館協議会

第31期第7回定例会議事録

令和7年3月7日（金）
オンライン開催（都立中央図書館4階第3研修室）
午前10時01分～午前10時36分

出席者名簿

委 員

新保史生委員 野末俊比古委員
野村敦子委員 松本直樹委員
村井麻衣子委員 山田麗奈委員

(欠席者)

松永今日子委員
小黒仁史委員
松永透委員
坂本真樹委員
寺田麻佑委員
吉澤健仁委員

都立図書館幹部職員

中央図書館長 管理部長 サービス部長

総務課長 企画経営課長 多摩図書館長 資料管理課長 情報サービス課長

事務局

企画経営課課長代理 企画経営課企画経営総括担当

配布資料

資料1 都立図書館におけるDXの推進をめぐる課題と解決の方向性提言（案）

第31期東京都立図書館協議会 第7回定例会

令和7年3月7日（金）

午前10時01分開会

【企画経営課長】 皆様、おはようございます。本日は、お忙しいところをお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、第31期第7回東京都立図書館協議会を開会いたします。

私は本日司会進行を務めます、都立中央図書館管理部企画経営課長の白濱でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、配付資料の確認、情報公開、本日の次第等についてご説明いたします。

配付資料につきましては事前に事務局から、次第の「配付資料」に掲載している資料をお送りしております。不足等がございましたら事務局から送付いたしますので、チャットにてご記入ください。

本日は、小黑委員、坂本委員、寺田委員、松永今日子委員、松永透委員、吉澤委員がご欠席です。本協議会は委員の半数以上の出席をもって成立となりますため、定足数を満たしており、会は成立しております。

次に、この会の情報公開についてご説明申し上げます。当協議会におきましては、会議は原則として公開としております。会議の内容は、委員のお名前を明記して議事録を作成し、都立図書館のホームページ等により公開いたします。

また、本日の会につきまして、記録のためMicrosoft Teamsのレコーディング機能で録画等をしております。

本日の傍聴者はいらっしゃいません。

それでは、本日の流れについて説明いたします。次第をご覧ください。

本日は、第31期東京都立図書館協議会提言についてご協議いただく予定となっております。案を確定いただいた後、議長から館長に提言を手渡していただくというのが本日の流れとなっております。

また、本日は第31期の最終回ですので、委員の皆様から一言ずつご挨拶を頂戴したいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

これからの議事進行につきましては、野末議長にお願いいたします。

【野末議長】 それでは、議事に入ります。皆さん、改めましておはようございます。最終回、若干ご欠席の委員が多く、また会場も議長、副議長を入れて4人ということですが、めげずに進んでいきたいと思います。

今、事務局から説明がありましたとおり、本日は第31期東京都立図書館協議会の提言についてご協議いただくという予定になっております。協議といいましても、既に委員の皆様にはご協議いただいて、文案もご確認いただいておりますので、最終的な確認、了承をこの場で取るという流れになっております。

では、ごく簡単に提言について確認をしていきたいと思いますので、お手元の資料の「提言」、もう「案」が取れているものですが、ご覧いただいて、1ページ目の「はじめに」の「検討の背景」のところで、今回の提言あるいは我々のこの期の役割について振り返っておこうと思います。

「検討の背景」に記されておりますように、前の前の期に当たります29期の協議会で、いわゆるICTを使ったサービスについて検討がなされました。

第2段落になりますけれども、第30期、前の期の協議会において、いわゆるDXについて協議がなされて、これからの取組の方向が示されたということになります。

最後の段落になりますけれども、今期、私たち31期の協議会としては、29、30期の提言を受けて、DXを実際に推進していくに当たって課題も生じ得るということで、その課題を整理して、さらには「課題および解決の方策」とここにはなっておりますけれども、方向性を協議して提示していきたいということで進めてまいりました。こういった背景になっております。

次のページの3に行ってください、「協議の進め方」のところですよ。協議の進め方について事務局で、DX、様々な分野で様々な課題がありますので、それぞれの分野のご専門の先生にお集まりいただいて、各分野における動向、課題あるいはその解決の方向性についてレクチャーというか、ご説明をお受けして、その上で質疑応答、意見交換を行うという形を取ってまいりました。そこからそれらを取りまとめる形で、図書館として、公共図書館として、さらには東京都立図書館としてどういったことを考えていったらいいかを整理していくというスタイルを今回の協議会では取ったということでございます。ですので、この提言もそれに沿ったつくり方になっているということです。

まず第Ⅱ章のところ、一つ一つは言及いたしません、冒頭にありますように6名の各委員からご報告いただいたものを、1から5にありますとおり自治体DXの話、人工知能(AI)

I)の話、著作権の話、個人情報保護の話、そしてほかの図書館等における動向ということで、5つに整理をさせていただいたということです。ですので、この章については委員の皆さんがお使いの表現、用語を基本的にはそのまま使っておりますので、そのことも断り書きにあるとおりですが、なるべくご発言をそのまま生かした形になっております。

ずっと進んでいただいて、Ⅲ章です。ざっとご確認いただいて、24ページまで飛んでいただくと、ここは課題ということで整理がなされております。ここは事務局が質疑応答のところを中心にうまく整理していただいたものを基に我々が議論して、加筆修正等をしていくという形で進めさせていただきました。Ⅲ章ではDXを推進するための課題について、1の「AI」、2の「個人情報・プライバシー」、そして3の「自治体DX」ということで、大きく3点に分けて、まとめて記しているということでございます。

Ⅳ章に行っていただきまして、28ページ。ここでは課題解決の方策という具体的なところまでは行っておりませんが、方向性ということで、こういった方向で考えていくのがいいのではないかということを示しているところでございます。ここでは実際に都立が行っている取組の現状も含めて記しているということです。ここも協議会の中での質疑応答や意見交換の中から論点を整理したという形を取っているところです。

最後の31ページのⅤ章「おわりに」のところは、今回の協議会の形式の制約、限界もあって、細部について掘り下げ切れなかったところであるとか、触れ切れなかった論点もありますので、そのことをお断りした上で、都立に対する期待を最後にお伝えして締めているということでございます。

あとは参考資料として、審議経過と名簿がついているということでございます。

では振り返ったところで、内容についても委員の皆さんには宿題という形になってしまいましたけれども、一往復半いたしまして、お忙しい中ご確認いただきましてありがとうございます。前回のこの会議の前にも一度やりとりをしておりますので、ご負担が大きかったかなと思っておりますが、ご対応に感謝を申し上げます。

ワーキンググループ形式でやってしまう形もあるのですが、今回はいろいろな分野の方々に集まっていたので、メールベースですけれども宿題形式で、協議会の席上以外のところを進めさせていただいたということになります。

それでは、この内容で第31期の協議会提言とすることについてご承認いただけますでしょうか。

こういうときに、オンラインの場合は顔を出してうなずいていただくか、Vサインか何か

送っていただくか。ありがとうございます。

(「異議なし」の声あり)

では、よろしいでしょうか。

松本先生から、何か補足等がありますか。

【松本副議長】 大丈夫です。

【野末議長】 それでは、現在お手元にあります資料の形をもって、第31期東京都立図書館協議会提言とするということでご承認いただいたことにさせていただきます。ご協力いただきまして、本当にありがとうございます。至らぬ点がありました点は、この場を借りておわびを申し上げたいと思います。

では、ここで提言が確定いたしましたので、進行は事務局にお返しすることになります。事務局からお願いします。

【企画経営課長】 ありがとうございます。

それでは、提言を議長から館長に手渡していただきたいと思います。

(提言手交)

【中央図書館長】 それでは、私から御礼のご挨拶をさせていただきます。

まずは、長きにわたりまして31期の議長をはじめ委員の方々、本当にお忙しいところを感謝申し上げます。

図書館にとどまらず、この提言の中にございます様々な課題というか、分野については、今、本当に行政の中でも大きな、進めなければいけない課題と捉えてございます。今回頂いたご意見を、この図書館にとどまらず、都の行政の中にもどんどん活用していきたいと考えてございます。

翻りまして、この図書館でございます。委員の先生方ご承知のとおり、環境が激変して、なかなか厳しい状況だとは思いますが。活字離れだとか技術の進歩になかなか追いついていないのが今の状況だということは、我々も重々認識しなければいけないところだと思います。

ご承知のとおり、この中央図書館、別の場所に移転ということも想定してございます。今後そういった新しい図書館をつくっていかねばいけないという中で、本当に先生方のお力をお借りする場面が多々あると思いますので、引き続き、この中央図書館に、いろいろご指導いただければと考えてございます。今日は終わりではなくて、また引き続きよろしくお願いしたいということをもってご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございます。

ました。

【企画経営課長】 それでは、最後に皆様から一言ずつご挨拶を頂戴したいと思います。

第31期東京都立図書館協議会委員名簿順にご挨拶を頂き、松本副議長及び野末議長に最後にご挨拶を頂ければと存じます。

指名順としては、本日ご欠席の方もいらっしゃいますので、初めに坂本委員はご欠席ですが、挨拶文を頂戴しておりますので代読させていただきます。

＜坂本委員ご挨拶＞

子どもの頃から大変お世話になりました図書館の未来の在り方を議論する、大変重要な協議会に参加させていただき光栄でした。ありがとうございました。

本協議会での議論を通し、異分野の先生方のお話をうかがうことができ、学びが多く、大変ありがたく思います。

D Xが叫ばれる中、図書館の在り方も難しいところかと思いますが、協議会での議論を通し、やはりリアルな図書館での体験の重要性を再認識もいたしました。A I（人工知能）の専門家として十分に貢献できたかわかりませんが、今後の検討に少しでもお役に立てていれらうれしいです。

最後の定例会に学会発表のため出席できず大変残念でした。

今後の東京都立図書館の発展をお祈りしております。

以上です。

次にオンラインの新保先生、よろしくお願いいたします。

【新保委員】 よろしく願いいたします。

本日直接お伺いする予定が、大変光栄にも情報セキュリティ文化賞という賞を受賞することになりまして、この後授賞式がありまして、移動時間の関係で直接お伺いできず大変残念です。

今回このような貴重な機会を頂きまして、報告書のつくり方と内容について非常に感銘を受けております。というのも、最近、大体こういう報告書というのはシンクタンクに委託をして、シンクタンクの担当者がある意味で当たり障りのない内容の原案を出してきて、各有識者であったり各委員のメンバーがいろいろと意見を出しても、なかなか反映していただけないという状況がかなり多いと思っております。

私はとにかく内容については積極的に意見を申し上げて、いろいろと言うと。せっかく参加させていただくからにはそういうスタンスでいつも行っているのですけれども、最近は

あまり意見を反映していただくことができないこともかなり多いと。ご存じのとおり、特にA I 関係は、様々な施策とか取組が最近進んでおりますけれども、新しい問題であるということもあって、なかなか新しい意見を取り入れることも難しいという状況があるかと思えます。

そのような中で、今回の報告書は本当に文字どおりのデジタル化、それからA I 時代に向けた取組ということで、内容についてはかなり積極的な、かつ斬新な内容になっていると思いますし、私も、僭越ながら内容について、勝手ながら書き込んでいろいろ加筆修正をさせていただきましたけれども、そういった意見も取り入れていただいて、非常に内容が充実した報告書として公開をしても、いろいろな場でご紹介させていただきたいと思っております。授業でも使いたいと思っているところですし、内容については非常にすばらしい報告書になっていると思います。

このような機会を頂きまして、どうもありがとうございます。

【企画経営課長】 ありがとうございます。

次に野村委員、お願いいたします。

【野村委員】 私も図書館の詳しいことについて全く何も知識がないまま、参加させていただきました。ただ、図書館の機能や役割、あるいは一口に「デジタル化」と申しまして、それぞれの先生方からご報告いただきました個人情報や著作物との関係、あるいはAIのような新しい技術を、情報を取り扱う図書館がどうやって取り込んでいくかなど、いろいろな切り口からお話をお聞かせいただきまして、非常に勉強になりました。

私自身は「自治体D X」という、ちょっとふわっとした感じのお話しかできなかったのですが、そういったものにつきましても、いろいろな視点から問題点、課題などをご指摘いただき、私自身のこれからの調査・研究におきましても非常に得るものが大きかったと思っております。

今回のこちらの提言についてですが、東京都は日本の中心であって、国内の他の図書館のロールモデルになるとともに、世界の図書館の中でも「D Xについて非常にいい取組をしている」と言われるような、そういう将来像を描きながらぜひ取り組みを進めていただけたらと思います。

それと同時に、私たち市民・利用者としての視点ばかりではなく、図書館にお勤めになれる職員の皆様が、この新しい技術をうまく使って、やりがいのある職場・仕事といったものが実現されていくといいのではないかと思います。

本当にこのような貴重な機会を頂きまして、ありがとうございました。

【企画経営課長】 ありがとうございました。

それでは、次に村井委員、お願いいたします。

【村井委員】 私も今回このような貴重な会に参加させていただいて、本当にありがとうございました。

図書館とDXという、内容が多岐にわたるなかなか難しい問題ですので、どのようにまとまるのかなと思っていたのですけれども、議長をはじめとして委員の先生方と事務局の皆様のおかげで、素晴らしい提言の内容にまとまったのではないかと思います。あまりお役に立てなくて恐縮ですが、大変勉強になりました。

私は主に著作権法の観点から関わらせていただいたのですけれども、図書館実務の現場での課題や問題と、研究領域としての著作権法の橋渡しが大事であると感じました。著作権法と図書館の領域の研究は、これからまだまだ議論が必要になってくると思います。図書館の現場でのいろいろな課題や問題をご指摘いただきながら、私たちも研究していかなければいけないと思いますので、これからもぜひ図書館の皆様にいろいろ教えていただきながら研究を進めていきたいと思ったところです。

2年間、どうもありがとうございました。

【企画経営課長】 ありがとうございました。

それでは、オンラインでご出席いただいている山田委員から一言お願いいたします。

【山田委員】 お世話になっております。山田でございます。2年間という、あっという間のようですごく長い期間だったのですけれども、本当にお世話になりました。最終回、来られると思っていたのですけれども、参加できずオンラインになってしまい、本当に申し訳ありません。

一般公募の委員として参加させていただいたのですけれども、DXというところで私のつたない経験から、私の中ではどちらかというとより積極的な、「こういう取組もできるんじゃないか」「ああいう取組もできるんじゃないか」という、いろいろな中でのアイデアを持ちながら参加していたのですけれども、先生方のお話を聞いていると、各分野のご専門の方々が、こういった東京都の図書館なので進めるに当たって、こういうリスクもあるのではないかと、こういう観点も考えないといけないよねという形で、私が本当に毎回学ばせていただくようなプロセスだったと。そうかそうかと。積極的に、前向きに、どんどん「それやりたい」「あれやりたい」というところだけではなくて、こういうリスクをきちんと考え

なけいといけないんだというところが毎回本当にすごく勉強になるなと思いながら、参加させていただいておりました。

どれだけ役に立てたかというのが甚だ難しいところではあるのですが、このご縁せっかくなので大切にさせていただきながら、またどこかで皆様とご一緒できる機会を楽しみにしております。

本当にたくさん勉強させていただきまして、ありがとうございました。

【企画経営課長】 ありがとうございました。

それでは、次に吉澤委員です。本日ご欠席ですが、挨拶文をお預かりしておりますので代読させていただきます。

＜吉澤委員ご挨拶＞

公募委員として選んでいただき、初めて委員を務めさせていただきました。とても貴重な経験をさせていただき、感謝申し上げます。

ふだん民間企業で働く私としては、委員の皆様と接する機会もなく、とても新鮮な場でした。委員の皆様からの発表やご発言に感心するばかりで、気の利いた発言が全くできず申し訳ありませんでした。私が委員の皆様から一方的に勉強ばかりさせていただく機会となってしまうしました。

今後は都民の1人として、東京都立図書館を利用しながら応援させてください。本当にありがとうございました。

以上です。

ありがとうございました。

それでは、松本副議長よりしくお願いいたします。

【松本副議長】 4期務めさせていただきました。次の期はもうないということで、この期で卒業ということになります。大変お世話になりました、ありがとうございました。

今期は従来の期とはちょっと違って、委員の方からご発表いただいて、それを踏まえて協議をしていくというやり方でした。前の期までは小委員会をつくって、そこで一旦議論をもち、そして定例会に持っていて、そこでもう一度議論するという形でした。

どっちがいいかというのはなかなかあれですが、今回やってみて思ったのは、先生方のいろいろな広い知見というか、小委員会で議論するというのは本当に議論から始まるので、議論の基となるものというのは必ずしもなくて、少しそれぞれ皆さんがお持ちになった知見を議論しながら案をまとめていくという形でした。今回はまとまった知見を先生方からお

出しいただくというやり方で、そういう意味では私自身が非常に勉強になったと思いますし、恐らくほかの委員の先生方もいろいろ新しい知見に接する機会にもなったのかなとも思いました。今回はそういうことで、進め方としてはなかなかよかったのではないかと思います。

もう1点お話ししたいのは、「課題解決の方向性」の一番最後に書いてあるところですけど、「都立図書館には、図書館施策推進のための象徴的取組が期待されている」ということですよね。都立ほど人的なリソース、それ以外のリソースを持っているところは、日本全国にないと思うのです。そういう意味では、この社会が変わっていく中で、都立が新しい取組を積極的にするということは非常に期待されていることだと思いますし、多くの図書館が見ていると思うのです。そういった意味では、今回の提言をぜひ生かして、そうしたことを進めていっていただければと思います。

長い間、どうもありがとうございました。

【企画経営課長】 ありがとうございました。

それでは野末議長、よろしくお願いいたします。

【野末議長】 上限は4期なので松本委員が「卒業」と今おっしゃっていましたが、私も大分前に4期務めてまた戻ってきたので、再入学という制度はありますのでお待ちしております。クーリングオフを経ると、また委員を引き受けることができることになっておりますので。

それはともかく、まず今期は、今日の委員の皆さんの挨拶の中にもありましたけれども、本当に専門的なお話が多かったのは、課題を解決するにはそこが分からないといけないということで、お互い勉強になったというご発言がありましたけど、私自身も全く同じ感想を持っております。

正直なことを言えば、「課題の解決が議論のテーマだとすると、これはなかなか荷が重い」とお引き受けしたときは思いましたが、本当に委員の皆様がそれぞれのご専門を踏まえて分かりやすくご説明くださって、そこからきちんと質疑応答、意見交換、議論ができたので、それで提言をまとめることができたと思っております。私自身も勉強不足を痛感しまして、もう一踏ん張りしなければと思ったところでございます。

それから、事務局の皆さんも今回は大変だったと思います。専門的なところも多かったですし、私たちが話したことをまとめていくということでご苦労も多かったかなと思いますので、この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

私自身は議長をお引き受けさせていただいたのですが、とにかく委員の皆さんが発言しやすいようにということだけは心がけてきたつもりでいます。先ほど新保委員からありましたけれども、こういう協議会とか審議会は、シンクタンクとかいろんなところにお任せをして、ひな形があって、それにちょっと加筆修正する程度の、場合によっては本当にガス抜きのような発言だけで終わってしまうようなケースが見られるわけですが、今回はそうではないということでしたので、であればとにかく委員の皆さんが自由にご発言できるようにということで、多少軽口を交ぜながら進めてきました。「真面目にやれ」と言われれば真面目にできるのですが、そういう意図だったということでご理解いただければ思っております。

先ほど館長からもありましたけれども、少し先ですが、都立はお引越しが予定されています。松本委員からもありましたけれども、世の中の注目が集まってきていて、さらに集まっていくと思っています。

もちろん移転を機にできること、移転前からできること、移転してからできること、いろいろあると思いますけれども、チャレンジングな取組を含めて優先順位をつけて、ぜひ全国の図書館あるいは、野村委員からもありましたけれども、世界の図書館の見本というか、先駆的な取組として一目置かれるようなところを。失敗も含めていいと思います。「これをやってみるとこれは駄目だった」ということも先駆的な例で、図書館界には貢献できることだと思いますので、ぜひ今回の提言も踏まえ、それから前の期、前の前の期の提言も踏まえて、今後の取組、進展に期待をしていきたいと思っています。

そして、これは私自身も含めてですが、委員の皆様、これで今期、提言を出したから終わりではなくて、提言でいろいろしゃべってしまった、言ってしまった、書いてしまった責任が我々にありますので、ぜひこれからの都立の取組について見ていく、ウォッチしていくと同時に関わりを適宜持ちつつ、地元の図書館あるいは図書館だけではなく、ひいては東京と、あるいは日本がよりよくなるような方向で協力していただければということを思っているところであります。

本当にありがとうございました。館長からもありましたけれども、これを機会に、この提言が生かされていくところまで含めて委員の役割だということで、我々も受け止めていきたいと思っています。お役に立ったかどうか非常に心もとないですが、この後の宿題も込みでと考えていますということで挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【企画経営課長】 ありがとうございました。

委員の皆様、貴重なお言葉をありがとうございました。頂いた提言の実現に向けて、これから鋭意取り組んでまいります。

皆様、本当に２年間大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

それでは、第３１期東京都立図書館協議会を閉会いたします。ありがとうございました。

午前１０時３６分閉会